

第14回 ともななり文芸祭り

ともななり文芸大賞発表

ともななり文芸祭り

和歌に通じ、後に「信生法師集」などを残した初代川崎城主、塩谷朝業。その朝業公をしのび、平成11年度から開催されています。

第14回ともななり文芸祭りが2月24日(日)、市文化会館で開催されました。前回から短歌一般の部を全国から募集し、短歌、俳句、川柳、詩の4種目合わせて8476点の作品が寄せられました。その中からともななり文芸大賞、ともななり文芸準大賞、ともななり文芸奨励賞などが選ばれ、発表されました。

記念講演の開催



日本文藝家協会理事長で、宮中歌会始選者でもある歌人の篠弘氏による講演も行われました。「現代の短歌-いのちの凝視」と題し、短歌の持つ魅力が話されました。観客の皆さんも真剣に聞き入っていました。

短歌

【小学生の部】
大空へとどけとばかり大だいこ
汗キラキラとおどる友達
矢板小六年 千野根和志

【中学生・高校生の部】
父のような名ランナーを目指す日々
弱い自分と常にたたかう
片岡中一年 村上朝輝

【一般の部】
ガラス器に透る琥珀の蜜に見る
幾万の花潜りしいのち
千葉県勝浦市 里見絹枝

俳句

【小学生の部】
教室にそつと入った赤とんぼ
片岡小五年 上野侑香

【中学生・高校生の部】
金閣寺水面を揺らす初夏の風
片岡中三年 竹澤亜実

【一般の部】
鳳凰の羽撃きさうな荒御輿
那珂川町 藤田芳輝

川柳

【小学生の部】
ランドセル僕の未来がつまってる
片岡小三年 中郷成生

【中学生・高校生の部】
信じてる努力はきつと実を結ぶ
片岡中一年 笹沼優輝

【一般の部】
ふる里に心が戻る歌一つ
矢板市 岡本芳子

短歌 小学生の部



千野根和志さん

川柳 小学生の部



中郷 成生さん

短歌 中学生・高校生の部



村上 朝輝さん

川柳 中学生・高校生の部



笹沼 優輝さん

詩 小学生の部



高塩 未羽さん

川柳 一般の部



岡本 芳子さん

詩

【小学生の部】 小さなライバル

矢板小二年 高塩 未羽

【一般の部】 手袋

那須塩原市 黒沢 竜

二〇一一年四月二十二日午後九時六分
わたしはお姉ちゃんになった
パパといっしょに君が生まれてくるしゅん間に
立ち会った
二八六〇グラムの小さな君は大きな声で泣いた
びっくりしてわたしも泣いた
その後に弟だつて分かった
わたしが第一号にせいべつをかくにんしたんだ
妹がよかつたな
今まで一人じめできていたものはぜんぶ弟と
分けることになっちゃった
おもちやおやつもママも
パパのおひざわたしのぼしよだったのに
ママのうでまくらわたしのものだったのに
お姉ちゃんつつまらない
みんな弟のことばかり
手をしよんしよんしたりバイバイしただけで
みんなほめる
わたしは本も読めるしかん字も書ける
何だつて上手にできるのにな
お姉ちゃんつてやだな
でも
わらった弟はかわいいな
お姉ちゃんのまねっ子かわいいな
好きなんだけど泣かせちゃう
きらいじゃないからあそんであげる
わたしはお姉ちゃんだから
これからもよろしくね
わたしの小さなライバル君

一閃行の発車時刻が迫り
降りて行く同級生の一人から
彼に渡された小さな包みに
(お揃いです)と書かれた紙片
それはツートンカラーの
手編みの手袋だつた・・・
青と緑は
三陸の海と丘を思わせる
春まだ浅い北国の三月
あの人も同じ手袋を
身につけるのか・・・
あれから五年
今年も鯉幟の
自己主張する季節が近付く
だが今は
空にも海にも
魚の影は見えない・・・
バイクを走らせ駆けつけた
故郷の浜辺には
果てしもなく続く
瓦礫の楼閣・・・
鳥さえずまぬ
津波の跡に
探さねばならぬものがある・・・
図書館の一階は
水に流され
巡回図書館の車も奪われた
貸し出されたまま
返される当てのない書籍たち
失われた一万五千冊の蔵書
そしてあの人は
図書館のスタッフだつた・・・
陽が落ちて
全て存在が闇に融けて行く
明日も青と緑の手袋を探そう・・・

写真は当日
ご出席いただいた
矢板市在住の方です

